2025年（令和7年）
8月7日
（第三種郵便物認可 昭和23年4月15日）
毎月3回発行（第1,第2,第3木曜日）

今号の特集

▷ふりかけ・お茶漬け特集 ⑥～⑦面
▷乾物特集 ⑧面
▷小袋詰特集 ⑨面

中部飲食料新聞社ホームページ
http://chuin.net/【業界情報発信中】

畑から、味の素。®
「味の素®」は、うま味調味料です。さとうきびの糖蜜を発酵させてつくっています。

第3551号
発行所
中部飲食料新聞社
名古屋市中村区名駅5－18－9
電話（052）571－7116代表
FAX（052）571－7118
東京局
東京都中央区日本橋横山町1-4 203
電話（03）5614－7531
FAX（03）5614－7532

中部飲食料新聞

大正から 食を伝えて100有余年

バローHD

ドミーをTOB

全株式取得し完全子会社化

バローホールディングスは、ドミーの普通株式を公開買付け（TOB）することを決定した。TOBはドミーの完全子会社化を目的とし、期間は7月8日～8月20日。買付総額は約五一億円。

バローグループは、「創造・先取り・挑戦」を経営理念に掲げ、製造から流通・販売まで一貫して担う製造小売業としてのビジネスモデル構築を目指している。そのなかでバローグループの商品・サービス・決済で地域を便利に豊かにつなぐ『バロー経済圏』の構築と、商品力で選ばれる「デスティネーション・ストア」の実現に向けて、顧客接点を強化し製造小売業としてのビジネスモデルの進化を掲げている。基本方針として「ホールディングスとしてのグリップ力の強化」『主力であるスーパーマーケット事業を支えるグループ企業群の再編成』『関西エリアへの出店強化を含めたダイナリズムの創出」の3つを基本方針に定め、具体的な戦略として「成長戦略」「収益戦略」「持続性戦略」「差別化戦略」の4つ設定している。スーパーマーケット事業ではドミナント戦略を推進するとともに、来店動機を創出する「デスティネーション・ストア」への転換を進め、店舗数から商品力へのパラダイムシフトを進めることで、事業のさらなる拡大を進めている。

ドミーは三河地域を中心にスーパーマーケット33店舗を展開し、食品加工センターや惣菜センターなども有する。地域密着の展開で地域の人々から安定した支持を獲得している。完全子会社化のシナジー効果やメリットは①PB商品の導入拡大による粗利の向上②商品の共同調達によるコスト削減③各地域の客層を考慮した店舗開発・出店戦略④物流センター等の流通機能の共通化によるコスト削減⑤資材及び備品等の共同調達、バックオフィス業務の統合によるコスト削減⑥会員情報及びPOS情報を組み合わせたデータ分析によるマーケティング精度の向上。

「フレイル」新団体設立
イオン、キユーピー、日清オイリオG等が参画

イオンのほか、キユーピーや日清オイリオグループ、ニチレイフーズ、明治、はごろもフーズ、ニッスイ、フジッコ、伊藤ハム、マルタマフーズが有志企業として参画する「一般社団法人日本フレイル予防サービス振興会」（東京都）が設立され、正式に活動を開始した。

今後はフレイル推進委員会と連携しながら、フレイルの予防推進に向けて各種取組みを行う。

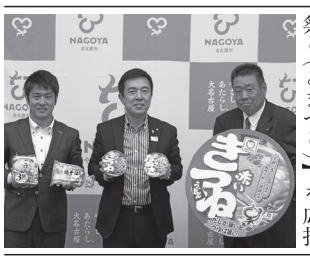
「フレイル」は加齢に伴い心身の活力が低下し健康と要介護の中間に位置する状態を指し、高齢化や健康寿命の延伸が話題となるなかで注目度が高まっている。フレイルの段階で適切な対応や介入を行えば健康な状態への回復が見込めることから、日常的な予防策や早期の対策が重要となる。

これまで東京大学の高齢社会総合研究機構を中心に産学連携によるフレイル予防の実証研究や事業化研究が行われてきたが、成果をより効率的かつ持続的に社会実装するため、高齢化対応のオープンイノベーションの一環として設立に至った。

一般社団法人日本フレイル予防サービス振興会の主な事業活動としては、フレイル予防の3本柱である食事をしっかりとる「栄養」、日常生活での活動量を増やす「身体活動」、人や社会とつながる「社会参加」を軸に展開。フレイルの予防などに関する啓発・広報事業のほか、専門家などによるセミナーやワークショップ等の研修事業、様々な情報や知見の収集、民間が行うフレイル予防サービスに関する自主認証制度の運営・推進などに取り組む。

6月25日には都内で設立及び事業説明が開催。久木邦彦代表理事（イオン顧問ヘルスウェルネス担当）は「フレイル予防は以前より提唱されているが普及や認知は不十分。振興会設立を機に行政など様々な機関や企業と連携し、認知拡大及び人々の健康的な生活に貢献していきたい」と説明。加納優子理事（キユーピー執行役員）は「3本柱の1つである栄養摂取に関しては、フレイル予防に寄与する、おいしく、調理しやすく、食べやすいなど、無理無く継続できバランスに優れた様々な食提案などを図っていきたい」と述べた。

東洋水産【どまつり】応援商品を販売



東洋水産は、名古屋市で8月29～31日に開催される【にっぽんど真ん中祭り（どまつり）】を応援するパッケージデザインの限定商品を販売している。7月8日には松本健司中京事業部名古屋支店長が広沢一郎名古屋市長を表敬訪問し商品概要などを説明した。

今年も【どまつり】開催にあわせ、お祭りのロゴと応援メッセージを配したオリジナルデザイン商品を限定発売。対象のカップ入り即席麺「マルちゃん 赤いきつねうどん」「同 緑のたぬき天そば」、トレー入り米飯「マルちゃん あったかごはん 3個パック」、チルド麺「マルちゃん焼そば 3人前」の4商品を7月中旬から中京地区で販売。同社は07年から【どまつり】に企画協賛し、19年に亘って応援している。

松本支店長は「名古屋の文化である【にっぽんど真ん中祭り】開催に向け、特別パッケージデザインの4商品を数量限定で発売。小売店などではポスターを掲げながら大陳売場などで販売して盛り上げる。【どまつり】や名古屋市を応援することで地域社会に貢献したい」とコメントしている。

広沢市長は商品を試食して「美味しい」と感想を述べ、「【どまつり】は夏の風物詩として定着し、参加者や観客が増えている。歴史ある『マルちゃん』商品のように、名古屋の一大イベントにしていきたい」と挨拶した。

なお、【にっぽんど真ん中祭り】は8月末の3日間行われる名古屋の夏祭りで、今回で27回目の開催。約200チームが地域色豊かな踊りを披露し観客も参加できる日本最大級の踊りの祭典となる。

廣田 正氏逝去（三菱食品㈱元社長、会長）

（三菱食品㈱元代表取締役社長、元会長、元名誉顧問）7月3日、逝去。享年92歳。

葬儀は近親者のみで執り行った。

故・廣田氏は1933年生まれ。55年に三菱食品の母体となる北洋商会に入社し、70年に取締役、73年に常務取締役、82年に代表取締役専務取締役、87年に代表取締役副社長、89年に代表取締役社長、03年に代表取締役会長に就き、07年に相談役、09年に特別顧問に就き、13年に退任した。

三河海苔問屋協同組合
福祉団体に海苔寄贈

三河海苔問屋協同組合は、愛知県三河地区の福祉団体へ焼海苔・味付海苔の寄贈を7月3日に行った。

同組合は例年、三河地区の福祉施設・団体への海苔の寄贈を実施している。今回は、組合員各社から1920個の海苔製品、合計一〇四万八〇〇円分を寄贈。豊橋善意銀行では計650個の海苔製品を寄贈、永井秀典理事長（永井海苔会長）より豊橋善意銀行の荒木義夫理事長へ目録が手渡された。なお、寄贈された海苔製品は地域の福祉施設などへ配布される。海苔製品の寄贈は、受け取った施設や家庭からも好評を得ており、毎年お礼の手紙などで感謝の言葉が届いている。

このほか、東三河フードバンクには520個の海苔製品が寄贈され、地域の世帯に配布。田原市社会福祉協議会、豊川市社会福祉協議会にも各350個の海苔製品の寄贈を行った。

同組合では12月にも福祉施設への海苔の寄贈を予定しているほか、毎年4月29日には豊橋市内の豊橋総合動植物公園での海苔の配布イベントも実施、海苔の消費啓蒙活動を積極的に推進している。

中飲 食知る辺
猛暑は当たり前に？

今年の6月は観測史上1位の高温、7月30日には兵庫県丹波市で国内観測史上最高の41・2度を記録するなど、猛暑、長い夏は特別ではなく当たり前の事となりそうな流れだ。

そうなると、これまで当たり前だった事のアップデートが必要となる。すでに花火大会などの夏の恒例イベントは10月などに変更する動きが出ており、ミカン畑をアボガド畑に転作するとしたニュースも聞かれる。話題の米においても、暑い気候でも育つ品種の採用が今後増える可能性があり、もしそのようになれば東南アジア等の様に〝二期作〟（二毛作ではない）という選択肢も出てくる。さらにこの様な米の品種に合う調味料や加工食品が多くなる事も考えられる。20年、30年後、日本の食文化、小売店の売場は激変しているかもしれない。

食卓に、健康の種を植える
すべての人を笑顔にしたい ShinSei
人も地球も、健康に生き続けられる食のあり方を追求し、
すべての人が笑顔で暮らせる社会をつくる。

環境への取り組み
食品ロス削減
資材ロス削減
環境に配慮した食品生産

社会への取り組み
国内外の子ども支援
健康価値の追求
産地との共生
食の安全と安心

経済への取り組み
ごまの新たな価値の創造
働き方と多様性

真誠 公式WEBサイト「サステナビリティ」

すべての人が笑顔で暮らせる持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

株式会社 真誠（しんせい） 〒481-8526 愛知県北名古屋市片場新町29 TEL(0568)23-3311 FAX(0568)22-4245
北海道・東北営業部／関東営業部／中部営業部／近畿営業部／中四国営業部／九州営業部／関ヶ原工場／名古屋工場／胡麻の郷